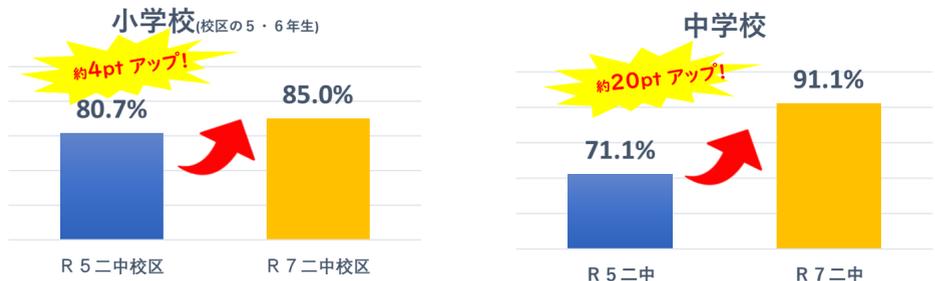


2 実態調査と分析

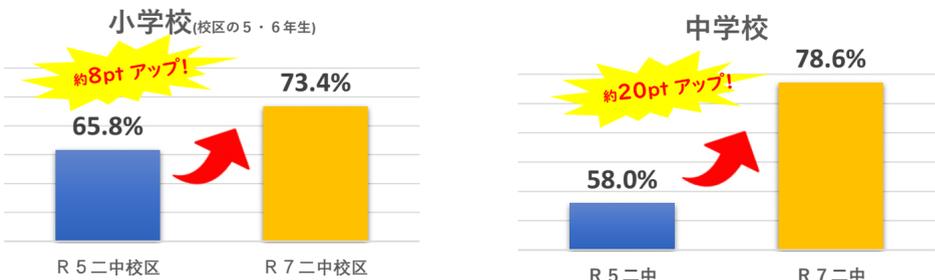
本研究における実態調査として、令和7年7月にアンケート調査を実施した。アンケート項目は、熊本県学力・学習状況調査の児童生徒質問紙・学校教師質問紙調査の項目より一部抜粋したものを活用している。
以下には、重点指標1、重点指標2の結果及び学校教師質問紙の結果についてデータを示す。

熊本県学力・学習状況調査 児童生徒質問紙調査の項目より

【重点指標1】授業では、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。



【重点指標2】授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えが上手く伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。



熊本県学力・学習状況調査 学校教師質問紙調査の項目より

【項目2】授業等で関わる児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか。

令和7年7月 二中校区肯定率 **89.5%** ※小中合算
(参考) 令和5年12月 二中校区肯定率 71.0% ※小中合算

教師の意識の向上によって、児童生徒の【重点指標1】に関する意識も向上していることが分かります。

【項目10】あなたは、授業の中で目標(めあて・ねらい)を示したり、引き出したりする活動を計画的に取り入れていますか。

令和7年7月 二中校区肯定率 **98.2%** ※小中合算
(参考) 令和5年12月 二中校区肯定率 97.9% ※小中合算

授業の質の向上のために“導入の工夫”に取り組んでいることが、教師の意識の高さとして表れています。

令和5年12月と令和7年7月のアンケート調査を比較 ※小学校は、5・6年生対象

授業の質の向上

アンケート内容	小	中
授業や普段の生活での問いの追求	17.0pt アップ	16.8pt アップ
友達との話し合いによる学習の深まり・楽しさ	10.0pt アップ	20.0pt アップ

学習環境

アンケート内容	小	中
積極的に発言・発表	14.0pt アップ	25.7pt アップ
協働学習で発言	2.0pt アップ	12.1pt アップ
納得解を提案・追求	7.0pt アップ	12.4pt アップ

家庭連携

アンケート内容	小	中
家庭学習の取組状況		
量的な変化は見られなかったが、質的にはレベルアップしている。		
家庭学習を全くしない生徒が6%ほど減少し、1時間以上取り組む生徒が12%ほど増加した。		

小・中ともにポイントが下がった項目

・「家の人が努力したとき褒めてくれる」

家庭学習の啓発と併せて、子供の意欲の向上や頑張りを積極的に保護者に伝えていく必要がある。

・「友達の話最後まで聞いてから発言」

適切な話し合い活動の仕方の指導を行っていく必要がある。

3 研究の成果(○)と課題(▲)

○授業の質の向上を目指し、すべての学校で、1つの前提と2つの視点をもとに授業づくりを行うことで、教師の授業改善への意識が高まった。

○すべての学校で共通した視点をもとに、授業を支える学習環境を整えたり、授業と連動する家庭学習に取り組んだりすることで、自ら問いを発生し、学びを深めようとする子供の姿が増えた。

○3つの小学校間や小学校・中学校間の連携を通して、9年間を見据えた系統的な指導ができています。

▲持続可能な取組にするために、研究内容を精選していくことも検討が必要である。

令和6・7年度 熊本県教育委員会指定
「熊本の学び」指定校事業

人吉市立第二中学校区研究発表会



研究主題

自ら問いを発生し、学びを深め、未来を切り拓く子供の育成



1 研究の概要

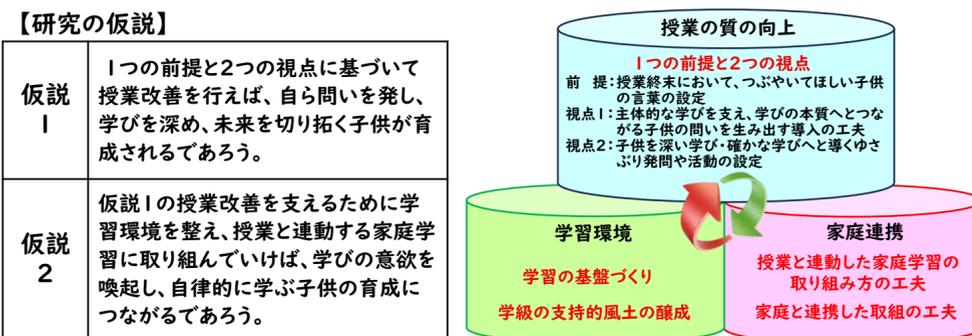
【研究主題】

自ら問いを発生し、学びを深め、未来を切り拓く子供の育成

【研究主題】

- 「自ら問いを発生する姿」とは、
既知の知識や概念と照らし合わせ、「なぜ」「どうして」「やってみよう」「考えてみたい」という興味・関心や意欲をもち、自分自身で疑問や課題を見つけ、単元を貫く学習課題について解決の見通しをもち、わくわくしながら学ぼうとする姿。
- 「学びを深める姿」とは、
課題に主体的に立ち向かって他者と協働し、自分の考えをよりよいものにし、根拠をもって自分の考えを表現し、学びを振り返るとともに新たな問いを見だし、次時への学びの意欲を持続する姿。
- 「未来を切り拓く姿」とは、
熊本の未来の創り手として、変化や未知の状況に積極的に向き合い、自分自身と社会をより良い方向に導こうとする力や意志をもち、個々の可能性を最大限に発揮しながら新しい価値を生み出す姿。その姿は、令和2年7月豪雨で被災した人吉の復興の希望となり、また、予測不可能で変化の激しい時代をたくましく生きる姿でもある。

研究の構想図(一部)



【研究の具体的な取組】

各部会	各部会における共通の視点	具体的な取組内容の一例
授業の質の向上	1つの前提と2つの視点 前提:授業終了において、つぶやいてほしい子供の言葉の設定 視点1:主体的な学びを支え、学びの本質へとつながる子供の問いを生み出す導入の工夫 視点2:子供を深い学び・確かな学びへと導くゆきぶり発問や活動の設定	・既習事項とのズレや様々な手法を使った問いを生み出す導入の工夫 ・教科や目的に応じた発問や活動の工夫 ・問いや深い学びを引き出す発問集の作成・活用 ・授業参観シートを活用した授業づくりや授業の省察
学習環境	学習の基盤づくり 学級の支持的風土の醸成	・漢字・計算大会 ・読書の推進 ・コミュニケーションタイム ・ブックトーク
家庭連携	授業と連動した家庭学習の取り組み方の工夫 家庭と連携した取組の工夫	・家庭学習の手引き ・家庭学習コーナーの設置 ・生活習慣の改善に向けた取組 ・家庭への啓発資料の作成

